令和3年度（2021年度） 熊本県学力・学習状況調査
教科に関する調査の詳細

各学年・各教科の正答率

小学校		国語	算数
3年	目標値	72.0	66.9
	県 平均正答率	73.6	69.9
	全国 平均正答率	75.6	68.9
	全国平均正答率を100としたとき	97.4	101.5
	R2年度	98.6	102.3
4年	目標値	67.5	65.5
	県 平均正答率	70.0	69.7
	全国 平均正答率	69.3	67.3
	全国平均正答率を100としたとき	100.9	103.7
	R2年度	101.2	107.5
5年	目標値	68.5	63.2
	県 平均正答率	70.0	66.9
	全国 平均正答率	68.9	63.8
	全国平均正答率を100としたとき	101.6	104.9
	R2年度	97.8	102.6
6年	目標値	68.7	70.3
	県 平均正答率	71.4	77.1
	全国 平均正答率	69.2	72.6
	全国平均正答率を100としたとき	103.1	106.2
	R2年度	102.6	106.4

中学校		国語	数学	英語
1年	目標値	58.5	60.0	57.3
	県 平均正答率	61.9	55.1	53.1
	全国 平均正答率	61.4	57.0	55.2
	全国平均正答率を100としたとき	100.7	96.8	96.1
	R2年度	99.7	100.1	97.6
2年	目標値	59.1	56.9	50.9
	県 平均正答率	61.6	55.8	44.7
	全国 平均正答率	62.0	55.9	46.9
	全国平均正答率を100としたとき	99.4	99.9	95.3
	R2年度	97.3	96.2	93.8

※ 数値は、小数第2位を四捨五入して示しています。
※ 全国平均正答率を100としたときの県及び全国正答率の数値は、小数第2位を四捨五入する前の数値で算出しています。

経年変化（同学年別各教科）

※ 各学年・教科の数値は、全国平均正答率を100としたときの値で比較しています。

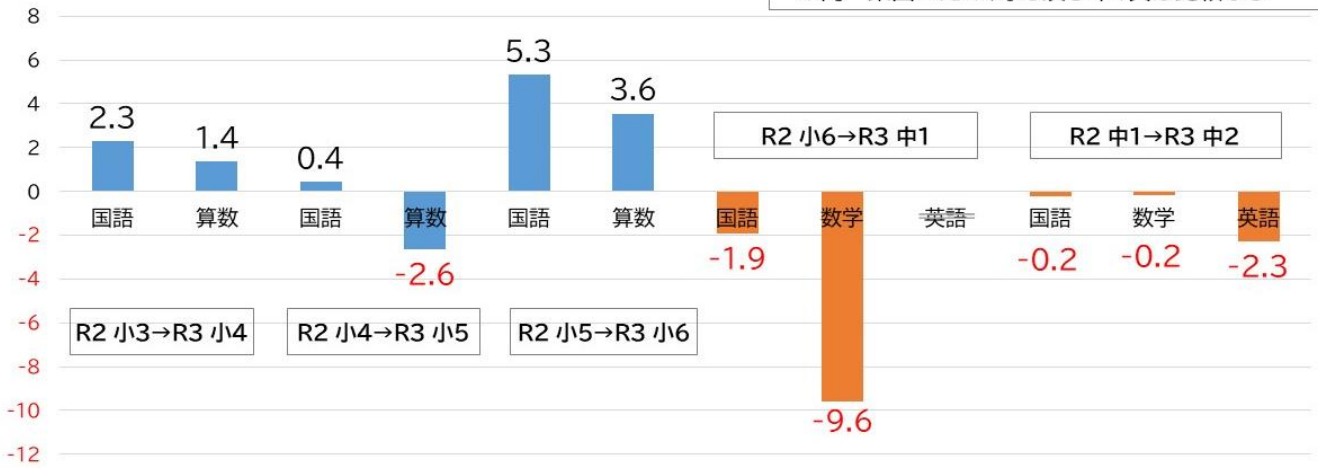
全学年・教科平均 97.2

全学年・教科平均 100.3

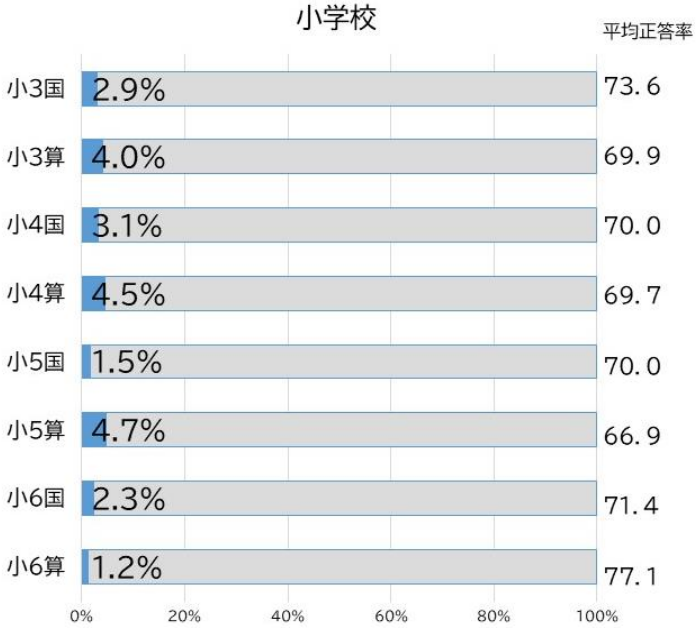
全学年・教科平均 100.5

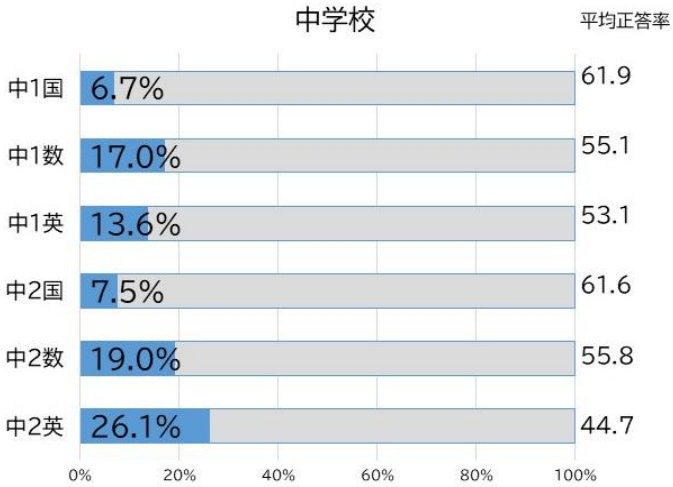
経年変化（同一集団の伸び　令和２年度→令和３年度）

全国値を100として、令和3年度と令和2年度の県平均値の差を基に作成
※同一集団のため、小3及び中1英は比較なし

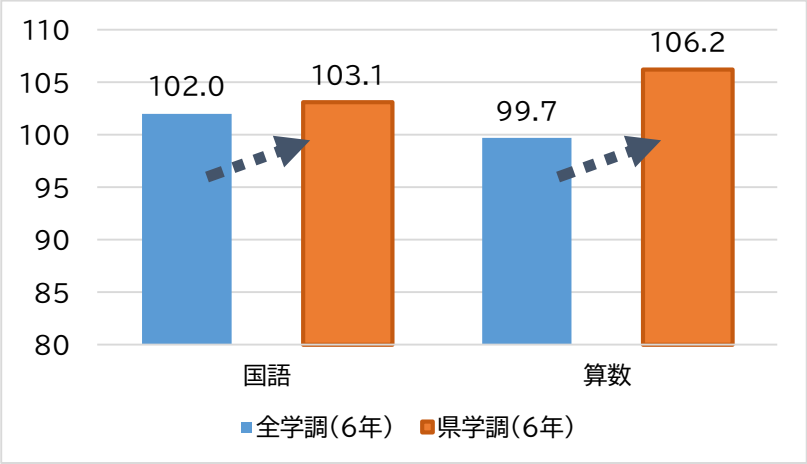


正答率３割未満の児童生徒の割合





【参考】R3年度全国学力・学習状況調査結果との同一集団（小6）の比較

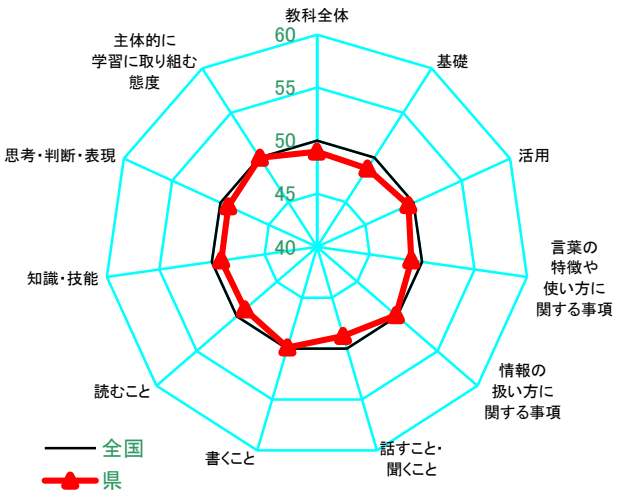


※ 数値は、それぞれの全国平均を100としたときの県の割合

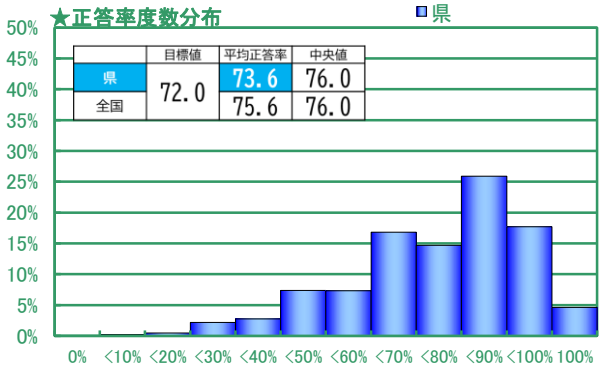
小学校第３学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	72.0	73.6	75.6
	基礎	76.5	77.1	79.4
	活用	62.5	66.2	67.5
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.5	77.8	79.8
	情報の扱い方に関する事項	62.5	63.8	64.5
	話すこと・聞くこと	78.3	78.9	82.2
	書くこと	56.7	60.9	61.3
	読むこと	76.7	74.8	77.2
観点	知識・技能	73.3	75.4	77.3
	思考・判断・表現	69.0	70.1	71.8
	主体的に学習に取り組む態度	63.0	68.5	68.6
解答形式	選択	70.4	69.6	72.2
	短答	82.9	85.5	87.8
	記述	62.5	67.7	68.0

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較（各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します）



★正答率度数分布



	目標値	平均正答率	中央値
県	72.0	73.6	76.0
全国		75.6	76.0

成果が見られた問題

７　正答率　72.4%（全国値 71.0%、目標値 65.0%）
　　指定された長さで文章を書いている。

課題が見られた問題

４（１）正答率　64.0%（全国値 68.4%、目標値 75.0%）
　　登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている。
６（２）正答率　36.5%（全国値 38.7%、目標値40.0%）
　　相手や目的を意識した表現になるように、文章を整えている。

小学校第３学年　国語

課題となった問題

●6(2)(本県 36.5%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】
・「１」を選択（県 19.8%）
・「３」を選択（県 13.6%）
・「４」を選択（県 24.7%）
・それ以外の誤答（県 0.3%）
【無答率】（県 5.1%）

目指す子供の姿

伝える相手や目的を意識して、何を伝えたらよいのか必要な情報を整理し、伝える内容を明確にして書く子供
〔指導事項〕小学校第3学年及び第4学年　思考力、判断力、表現力等B(1)エ

授業改善のポイント

○　必要な情報を整理し、伝える内容を明確にすることについて

・相手や目的を意識して、必要な語句を判断することが必要である。不特定多数の人に対してなのか、特定の人に対してなのか、何のために書くのか、相手はどのようなことを知りたいのかなど、相手や目的を念頭に置くことで、伝える内容が明確になる。

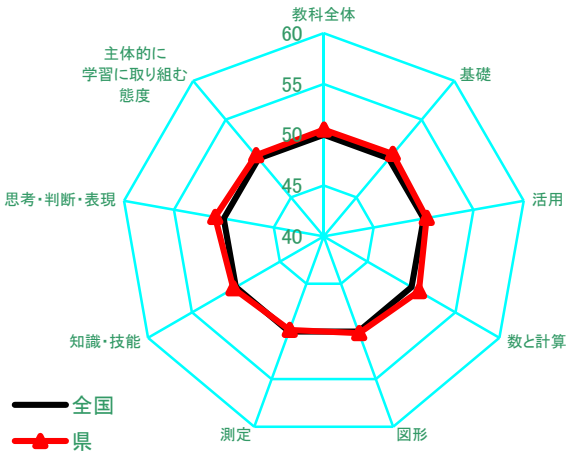
○　具体的な指導について

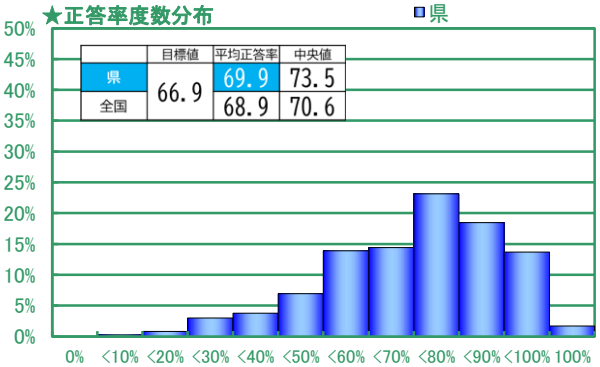
・〔知識及び技能〕(2)イの情報の整理に関する指導事項と「B書くこと」(1)アなどの材料を集めたり整理したりすることに関する指導事項との関連を図る指導が効果的である。
・左の問題の吹き出しのように、伝える相手の持っている知識や関心に応じて落としてはいけない語句がある。落としてはいけない語句を確かめ合い、なぜ必要なのか検討する場を設定する。
・情報の整理の仕方を理解するためには、書いた文章を推敲したり感想や意見を伝え合ったりする際の視点（書き方・内容等）を明らかにすることが大切である。
・書き直すことで、よりよい文章になったことを実感する機会を設ける。

小学校第３学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	66.9	69.9	68.9
	基礎	74.5	77.7	76.5
	活用	54.6	57.4	56.7
領域	数と計算	66.2	68.8	67.1
	図形	68.3	70.5	69.9
	測定	68.0	72.2	72.5
観点	知識・技能	73.5	76.7	76.2
	思考・判断・表現	45.6	48.0	45.4
	主体的に学習に取り組む態度	56.5	60.5	59.6
解答形式	選択	71.7	74.9	74.5
	短答	65.7	67.7	66.3
	記述	32.5	41.6	37.2

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)





	目標値	平均正答率	中央値
県	66.9	69.9	73.5
全国		68.9	70.6

成果が見られた問題

14　正答率　63.5%（全国値 60.5%、目標値 55.0%）
　球が２つ入った箱の辺の長さから、球の半径を求めることができる。

課題が見られた問題

８（１）正答率　63.6%（全国値 66.6%、目標値 70.0%）
　包含除の文章問題を図に表している。

小学校第３学年　算数

課題となった問題

●8(1)(本県 63.6%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】
・「１」を選択（県 20.5%）
・「３」を選択（県 7.4%）
・「４」を選択（県 7.3%）
・それ以外の誤答（県 0.2%）
【無答率】（県 0.9%）

目指す子供の姿

等分除や包含除のそれぞれの場面の問題を、具体物や図に表して立式したり、式から生活に即した問題を作ったりしようとしている子供

授業改善のポイント

○　問題場面を具体物や図に表して立式したり、式から問題を作ったりすることについて

・問題場面を、具体物や図を用いて表した上で、文章題に沿った四則計算を検討し、立式につなげる。また、式(四則)に即した問題を作ることで、数量の関係に着目しながら式の意味理解を深める。

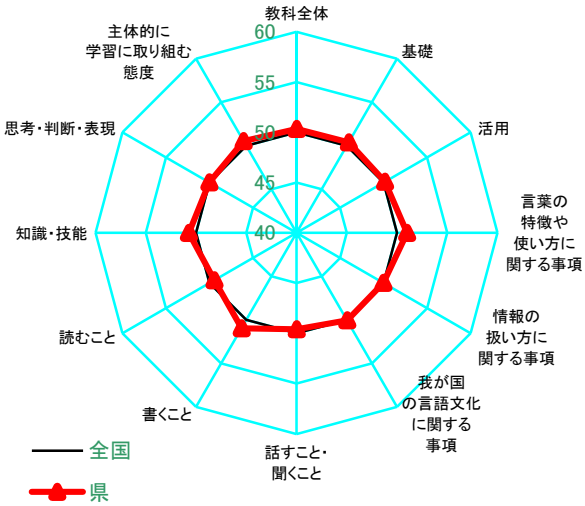
○　具体的な指導について

・問題場面を把握するためには、わり算の問題に関わらず、日頃から全ての問題において、具体物(ブロック等)や図に表すことが大切である。「問題」→「図」→「立式」の過程をたどる習慣を育成する必要がある。
・式(四則)の意味理解を深めるためには、式から問題場面を作り出すことも大切である。問題と式を往還する指導を行っていくことで、数量の関係に着目する習慣化につながる。
・問題場面を図に表す際、具体物から簡易的な図へと徐々に移行することが大切である。また、児童が作った問題を互いに解き合う場面を設定することで、計算を日常生活に生かす態度の育成につなげたい。

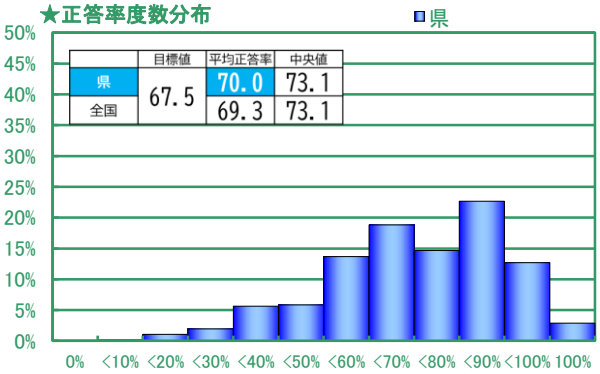
小学校第４学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	67.5	70.0	69.3
	基礎	70.9	72.6	71.8
	活用	61.1	65.0	64.7
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.0	76.0	74.0
	情報の扱い方に関する事項	63.3	64.3	64.4
	我が国の言語文化に関する事項	85.0	86.4	86.2
	話すこと・聞くこと	63.0	62.3	63.4
	書くこと	56.3	63.4	59.6
	読むこと	66.7	65.6	67.1
観点	知識・技能	70.4	74.2	72.8
	思考・判断・表現	62.7	63.9	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	55.0	60.0	58.2
解答形式	選択	71.2	72.6	72.6
	短答	72.1	73.8	73.4
	記述	54.2	59.8	57.5

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★正答率度数分布



	目標値	平均正答率	中央値
県	67.5	70.0	73.1
全国		69.3	73.1

成果が見られた問題

７　正答率　57.1%（全国値 53.3%、目標値 40.0%）
　内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いている。

３（２）正答率　84.2%（全国値 81.4%、目標値 70.0%）
　連体修飾語について理解している。

課題が見られた問題

４（２）正答率　47.0%（全国値 49.8%、目標値 60.0%）
　登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像している。

小学校第４学年　国語

課題となった問題

●4(2)(本県 47.0%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】
・「２」を選択（県 32.1%）
・「３」を選択（県 3.0%）
・「４」を選択（県 17.7%）
【無答率】（県 0.2%）

目指す子供の姿

叙述と叙述とを結び付け、言葉による見方・考え方を働かせながら、登場人物の気持ちの変化を具体的に想像する子供
〔指導事項〕小学校第3学年及び第4学年　思考力、判断力、表現力等C(1)エ

授業改善のポイント

○　登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することについて

・気持ちの変化を見出すためには、複数の場面の叙述を結び付ける必要がある。

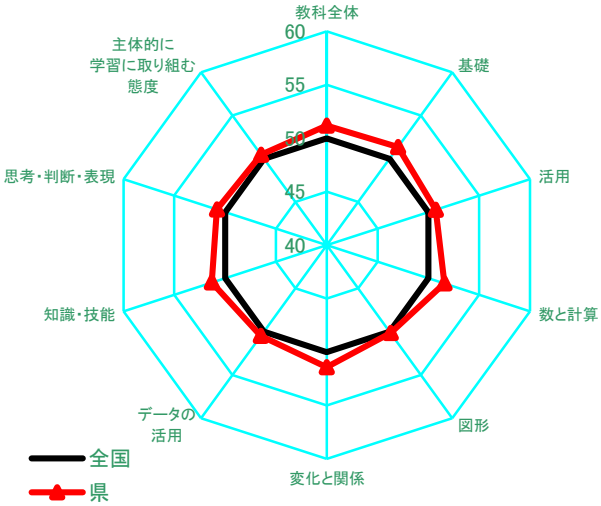
○　具体的な指導について

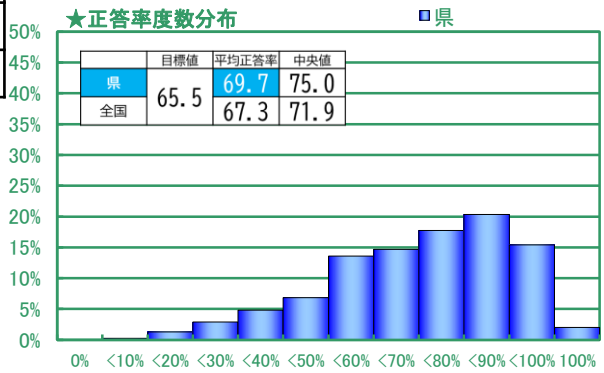
・行動や会話、地の文などの叙述を基に、登場人物の気持ちを捉える。その際、複数の叙述を基にすることが大切である。
・左の問題では、「ぱんぱんにふくれていた風船」だけではなく、「一気にしぼんだ」までを含んだ気持ちを選んでいる児童が多い。そのことから、授業において、文や言葉などの叙述に意識的に着目し、言葉による見方・考え方を働かせながら気持ちを考える活動を取り入れる。具体的には、着目した文や言葉に印などを入れ、そこに気持ちを書き込んでいくなど、複数の叙述を基に関連付ける活動を行い、その時の気持ちやその変化を具体的に想像できるよう促していく。
・幅広く読書に親しむ機会を設ける。

小学校第４学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	65.5	69.7	67.3
	基礎	70.0	74.0	71.2
	活用	55.5	60.4	58.6
領域	数と計算	66.4	71.8	68.6
	図形	63.1	64.7	64.3
	変化と関係	70.0	78.6	74.3
	データの活用	65.0	66.6	64.7
観点	知識・技能	70.0	73.8	71.1
	思考・判断・表現	55.5	60.9	58.8
	主体的に学習に取り組む態度	52.0	56.3	54.8
解答形式	選択	66.0	71.7	69.1
	短答	69.3	71.9	69.5
	記述	32.5	38.3	36.7

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較（各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します）





	目標値	平均正答率	中央値
県	65.5	69.7	75.0
全国		67.3	71.9

成果が見られた問題

８　正答率　71.7%（全国値 65.7%、目標値 60.0%）
　２つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べている。

課題が見られた問題

17（３）正答率　27.4%（全国値 29.3%、目標値 30.0%）
　ひし形の特徴を理解し、問題の答えがひし形になるようにヒントを出している。

小学校第４学年　算数

課題となった問題

●17(3)(本県 27.4%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答例】
・「辺」または「対角線」のどちらかを選び、ヒント２を正しく書いていない。（県 59.6%）
【無答率】（県 12.9%）

目指す子供の姿

図形の構成要素やそれらの位置関係に着目し、既習の図形を捉え直そうとしている子供

授業改善のポイント

○　図形の構成要素やそれらの位置関係に着目し、既習の図形を捉え直すことについて

・図形を構成する要素である辺の平行や垂直の関係に着目し、平行四辺形、ひし形、台形の性質を見いだすとともに、その性質を基に、既習の正方形、長方形を捉え直すことが必要である。

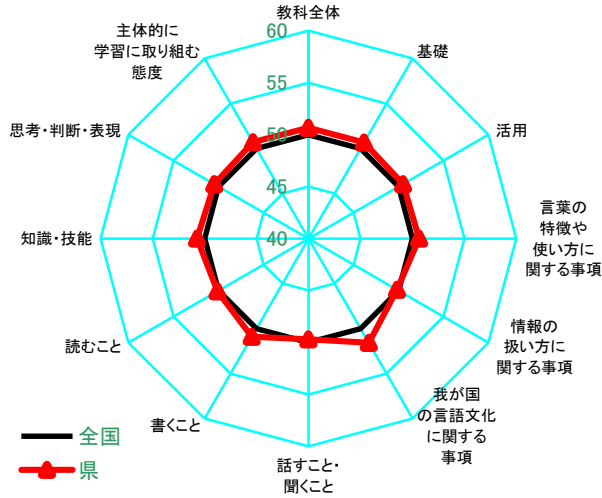
○　具体的な指導について

・構成要素や位置関係に着目して問題解決に取り組めるように、「平行四辺形と同じ仲間の四角形を集めよう」など、図形の仲間集めや仲間分けの活動を設定することが考えられる。
・習得した知識・技能を活用したり、既習の図形の捉え直したりする場として、本調査問題のような「名前あてクイズ」などの問題づくりの学習を設定する。その際、第1問を教師が提示し、その問題を参考にして第2問を児童が作るなど、問題作成の手順を示すことが大切である。
・児童が作った問題を互いに解き合う場面を設定することで、これまでの学びを主体的に振り返る態度の育成につなげたい。

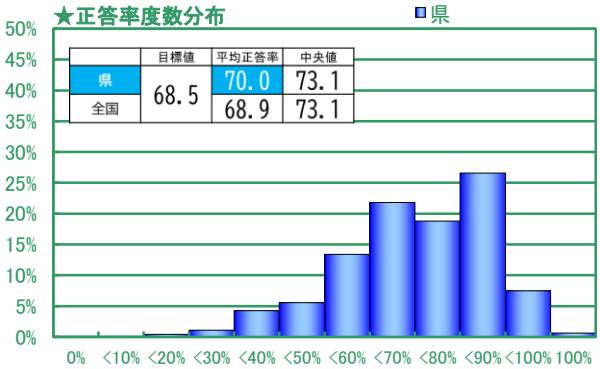
小学校第５学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	68.5	70.0	68.9
	基礎	71.9	72.8	71.7
	活用	60.6	63.8	62.6
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.7	74.8	73.7
	情報の扱い方に関する事項	55.0	64.2	64.9
	我が国の言語文化に関する事項	40.0	30.1	23.3
	話すこと・聞くこと	70.0	69.7	70.5
	書くこと	64.2	65.2	62.7
	読むこと	70.0	74.2	73.9
観点	知識・技能	67.9	70.1	68.8
	思考・判断・表現	67.7	69.7	68.7
	主体的に学習に取り組む態度	66.0	70.9	69.0
解答形式	選択	66.3	65.3	64.2
	短答	72.5	75.7	75.4
	記述	67.5	72.0	69.7

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較（各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します）



★正答率度数分布



	目標値	平均正答率	中央値
県	68.5	70.0	73.1
全国		68.9	73.1

成果が見られた問題

３（３）正答率 96.4%(全国値 95.7%、目標値 80.0%)
敬語について理解し、正しく使っている。

課題が見られた問題

１（１）正答率 43.4%（全国値 44.1%、目標値 60.0%）
話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉えている。

３（２）正答率 21.5%（全国値 16.0%、目標値 35.0%）
連用修飾語について理解している。

小学校第５学年　国語

課題となった問題

●3(2)(本県 21.5%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】
・「１」を選択（県 43.0%）
・「２」を選択（県 8.5%）
・「３」を選択（県 26.8%）
【無答率】（県 0.2%）

目指す子供の姿

文の中での語句と語句の係り受けを理解し、日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている子供
〔指導事項〕小学校第5学年及び第6学年　知識及び技能(1)カ

授業改善のポイント

○ 文の中での語句の係り方を理解することについて

・主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係に気を付けて文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であることに気付くことができるように指導することが大切である。

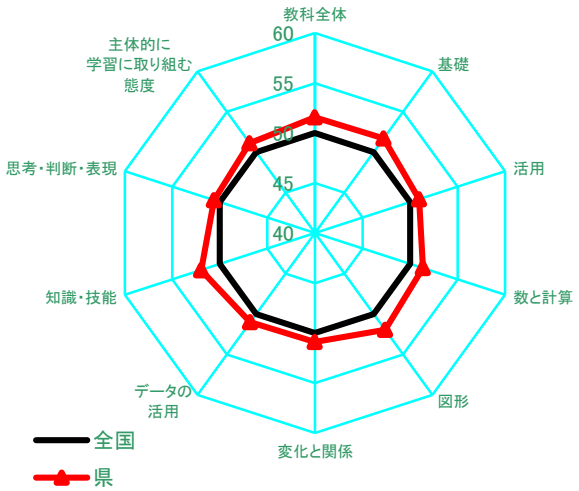
○ 具体的な指導について

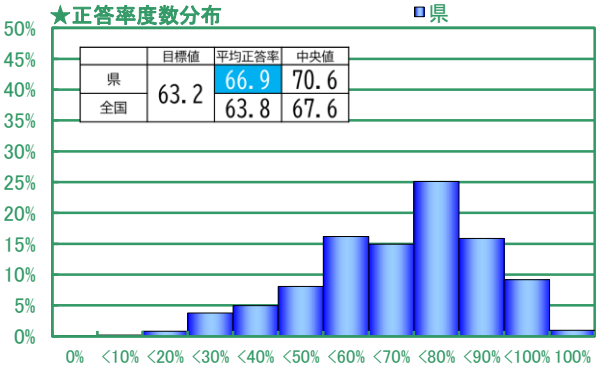
・〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の「推敲」との関連を図り、指導の効果を高める。
・場合によっては、言葉の特徴や使い方に関する取り立て指導により、文の構成を理解する学習を行う。
・問題文で問われていることを正確に捉える学習も必要である。左の問題の場合、「『道路で』がくわしくしている言葉」なのか、「『道路で』をくわしくしている言葉」なのか、題意を理解していない誤答が見られる。そこで、修飾と被修飾の関係を矢印等で表すなどの言葉と言葉の関係が視覚的に理解できるような工夫をすることが効果的である。

小学校第５学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	63.2	66.9	63.8
	基礎	70.4	75.0	71.7
	活用	43.3	44.4	41.9
領域	数と計算	61.6	64.6	61.8
	図形	73.3	79.8	75.1
	変化と関係	57.5	61.1	58.8
	データの活用	62.5	65.7	62.3
観点	知識・技能	70.2	76.0	72.0
	思考・判断・表現	50.4	50.2	48.7
	主体的に学習に取り組む態度	47.9	50.1	47.3
解答形式	選択	64.2	68.5	65.4
	短答	66.8	71.5	68.1
	記述	30.0	20.9	19.7

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)





成果が見られた問題

10（１）正答率 63.8%（全国値 59.4%、目標値 55.0%）
小数の除法（小数÷純小数）の文章題を図に表している。

課題が見られた問題

８　正答率 72.2%（全国値 72.1%、目標値 80.0%）
文章問題を解くために小数の除法の立式をしている。

20（３）正答率 11.2%（全国値 10.1%、目標値 30.0%）
小数の除法を用いて、どちらのふくろに入っている硬貨の金額が大きいのかを説明している。

小学校第５学年　算数

課題となった問題

●20(3)(本県 11.2%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答例】
・Ａのふくろの硬貨の枚数が多いから、Ａのふくろの金額が大きいと結論を出している場合（県 1.4%）
・上記以外の回答（県 65.9%）
【無答率】（県 21.4%）

目指す子供の姿

数量の関係を正しく捉えた上で計算の仕方を考え、小数の乗法や除法の計算を日常生活に生かそうとしている子供

授業改善のポイント

○　数量の関係を正しく捉えた上で計算の仕方を考え、小数の乗法や除法の計算を日常生活に生かすことについて

・文章題に即した四則計算を検討する際、数量の関係を正しく捉えることが大切である。除法について、何を求めるのか(割合や基準量)を捉えた上で立式して、答えが適切であるかを吟味する。また、単元の中に、小数が日常生活に使われている事象を問題として取り扱うことが必要である。

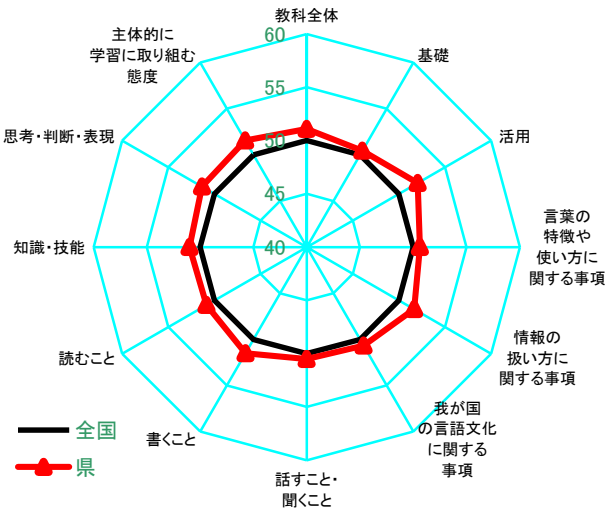
○　具体的な指導について

・式の意味を捉えることが大切である。除法の立式において、問題(事象)と式を往還することで、式の意味理解も深まっていく。
・乗法と除法をどちらも用いないと解決できない問題を扱うことも大切である。問題解決に向けて、解決に必要な数量を順序立てて求める能力を養っていく。
・日頃から自分の考えを記述する習慣を身に付けるよう、板書を機械的に写すのではなく、自分の考えや立式の根拠も含めてまとめたり、友達の考えを書き加えたりするよう促していくことが大切である。

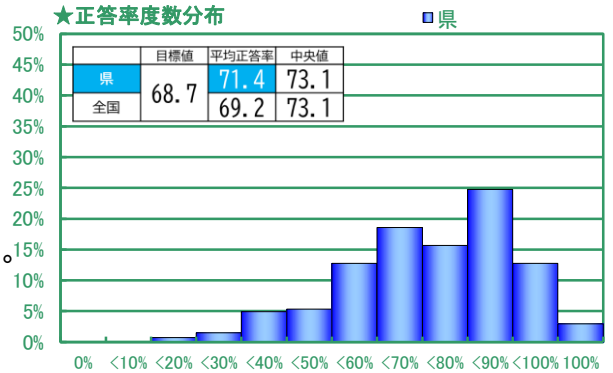
小学校第６学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	68.7	71.4	69.2
	基礎	70.0	70.5	69.6
	活用	66.1	73.0	68.6
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.5	72.2	70.7
	情報の扱い方に関する事項	60.0	75.8	70.1
	我が国の言語文化に関する事項	70.0	69.2	66.1
	話すこと・聞くこと	71.7	71.2	69.7
	書くこと	65.0	70.0	65.8
	読むこと	70.0	72.8	70.7
観点	知識・技能	68.2	72.5	70.3
	思考・判断・表現	68.3	71.4	68.6
	主体的に学習に取り組む態度	64.0	69.3	65.1
解答形式	選択	70.0	71.8	70.1
	短答	68.8	71.3	70.1
	記述	65.8	70.7	66.4

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★正答率度数分布



	目標値	平均正答率	中央値
県	68.7	71.4	73.1
全国		69.2	73.1

成果が見られた問題

６（２）正答率 66.3%（全国値 60.1%、目標値 50.0%）
情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。

５（３）正答率 85.4%（全国値 80.1%、目標値 70.0%）
情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。

課題が見られた問題

7　正答率 40.6%（全国値 41.3%、目標値 50.0%）
予想される反論とそれに対する意見を書いている。

小学校第６学年　国語

課題となった問題

●7(本県 40.6%)④に関する記述部分

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答例】
・予想される反論を書いているが、それに対する自分の考えを具体的に書いていない。（県 2.4%）
・それ以外の誤答（県 52.1%）
【無答率】（県 4.9%）

目指す子供の姿

意見について多面的に考え、目的や意図、相手に応じて、説得力のある文章を書く子供
〔指導事項〕小学校第5学年及び第6学年　思考力、判断力、表現力等B(1)ア、ウ

授業改善のポイント

○　目的や意図、相手に応じて、自分の考えの根拠となる材料を分類したり関係付けたりして、説得力のある文章を書くことについて

・自分の考えに説得力をもたせるには、主張の理由、事例として適切なものを選んだり、自分の考えとは異なる立場からの考えとそれに対する反論を明確にしたりすることが重要である。

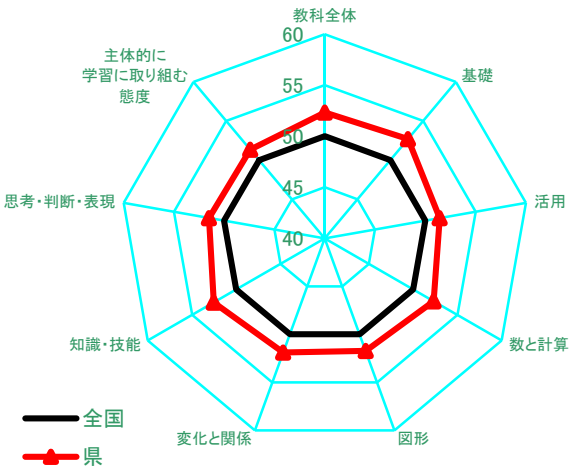
○　具体的な指導について

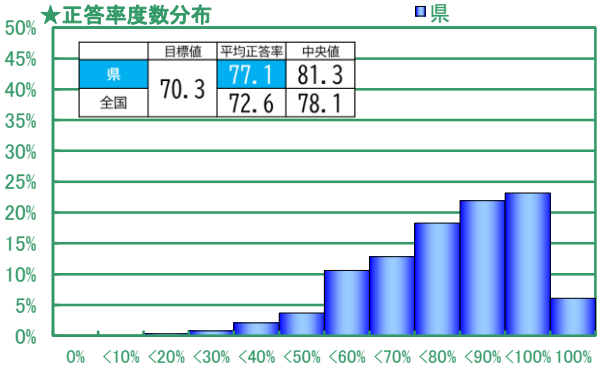
・説得力のある意見文の構成(例:①自分の主張 ②主張を支える理由と根拠 ③予想される反論とそれに対する考え ④まとめ等)を理解して書く必要がある。
・授業においては、自分の意見と反対の立場の意見を分類し、関係付けながら書くことで、伝えたいことが明確な説得力のある文章になるという効果を感じられるようにすることが大切である。
・日頃から、賛成・反対の両面から考える習慣を付け、自分の考えを説得力をもって書くことができるように記述の機会を多く設定することが大切である。

小学校第６学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	70.3	77.1	72.6
	基礎	78.0	84.5	79.8
	活用	53.5	60.8	56.8
領域	数と計算	75.0	81.2	76.7
	図形	68.9	75.9	72.2
	変化と関係	51.3	60.4	54.4
観点	知識・技能	75.0	81.7	77.1
	思考・判断・表現	56.3	63.4	59.3
	主体的に学習に取り組む態度	50.7	57.7	53.7
解答形式	選択	69.7	76.9	72.4
	短答	76.0	82.1	77.4
	記述	32.5	41.8	38.8

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)





成果が見られた問題

４　正答率 79.1%（全国値 73.3%、目標値 65.0%）
　除法の性質を用いて、分数の除法をしている。

課題が見られた問題

５（２）正答率 65.6%（全国値 60.6%、目標値 70.0%）
　比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶことができる。

小学校第６学年　算数

課題となった問題

●5(2)(本県 65.6%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】
・「１」（県 25.2%）
・「２」（県 7.5%）
・「４」（県 1.4%）
【無答率】（県 0.2%）

目指す子供の姿

数量の関係に着目し、問題場面に即した四則計算を用いて解決しようとしている子供

授業改善のポイント

○ 数量の関係に着目し、問題場面に即した四則計算を用いて解決することについて

・示された数量の関係に着目し、問われている数量を的確に捉えることが必要である。除法の場合、割合(p)と基準量(B)のどちらの大きさを求めるのかを捉えた上で、A(割合に当たる大きさ)÷B＝pなのか、A÷p＝Bなのかを決定することが大切である。

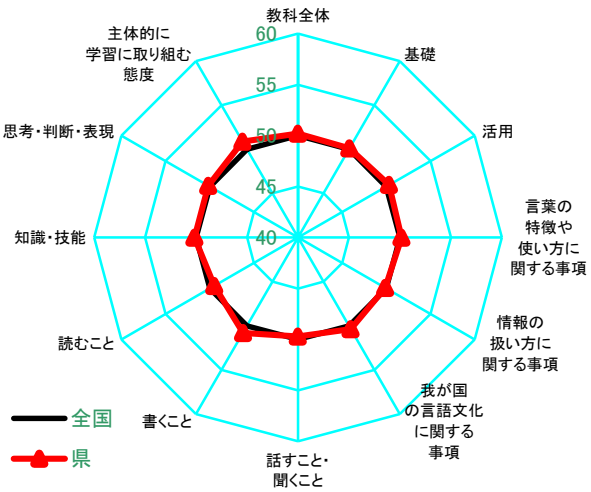
○ 具体的な指導について

・数量の関係を的確に捉えるためには、日頃からテープ図や数直線図等を用いて、事象を可視化する習慣化を図っていくことが大切である。そのことが正確な立式や答えの見通しにもつながる。
・A÷B＝pなのか、A÷p＝Bなのか、多くの児童が迷うことが考えられる。そのため、授業において、予想される複数の式を意図的に提示し、問題に即した式を検討する協働解決場面を設定することも必要である。
・自分で考えた式で求めた答えについて、問題に対して適切な数値になっているかを検討することが大切である。その際、単位にも注意することで、答えの妥当性がより吟味しやすくなる。

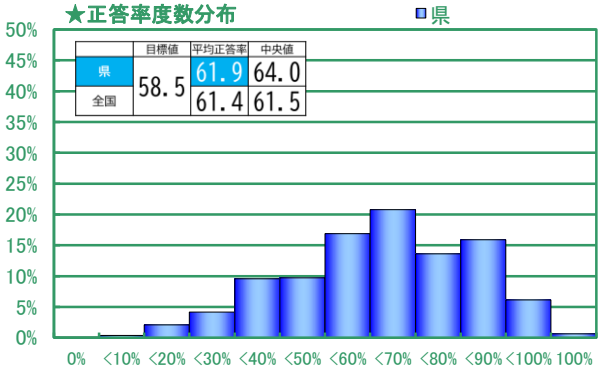
中学校第1学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	58.5	61.9	61.4
	基礎	60.9	64.1	63.9
	活用	53.9	57.6	56.8
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.1	64.6	64.2
	情報の扱い方に関する事項	47.5	47.2	47.7
	我が国の言語文化に関する事項	55.0	60.8	59.0
	話すこと・聞くこと	61.7	66.0	66.8
	書くこと	55.7	60.1	57.6
	読むこと	56.7	58.0	59.4
観点	知識・技能	58.3	61.4	61.1
	思考・判断・表現	57.2	60.4	60.0
	主体的に学習に取り組む態度	51.0	55.7	52.8
解答形式	選択	62.0	65.1	66.3
	短答	58.5	61.2	60.9
	記述	52.5	57.5	54.3

★標準スコアによるカテゴリー間の比較（各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します）



★正答率度数分布



成果が見られた問題

7　正答率 69.0%（全国値 64.1%、目標値 60.0%）
　指定された長さで文章を書いている。

課題が見られた問題

1（2）正答率 57.4%（全国値 59.8%、目標値 60.0%）
　自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えている。

4（2）正答率 42.5%（全国値 42.9%、目標値45.0%）
　情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈している。

中学校第１学年　国語

課題となった問題

●4(2)(本県 42.5%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答例】
・「Ａ『冬の寒さを過ごす』のみ正答」（県 1.2%）
・「Ｂ『夏の暑さ』のみ正答」（県 35.7%）
・上記以外の解答（県 12.2%）
【無答率】（県 8.4%）

目指す子供の姿

情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりして、必要な情報に着目し、内容を解釈している子供
〔指導事項〕中学1年　知識及び技能(2)ア、思考力・判断力・表現力等C (1) ウ

授業改善のポイント

○　原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することについて

・相手の考えを理解したり自分の想いや考えを表現したりするためには、話や文章の中に含まれている情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることが必要である。

○　具体的な指導について

・〔思考力、判断力、表現力等〕については、各領域との関連した指導が効果的である。

(例)「C読むこと」の(1)「ア　文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。」との関連を図る指導。

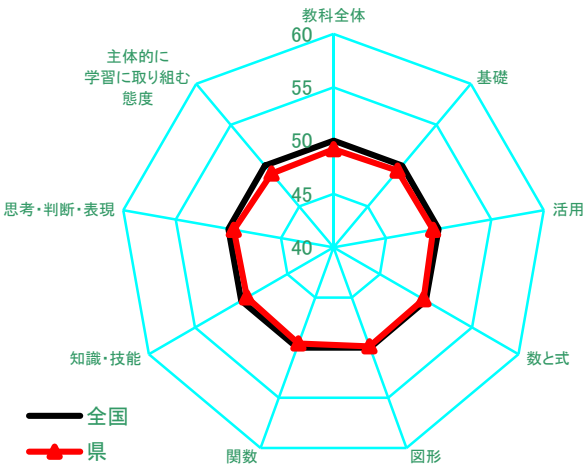
説明的文章において、書き手の主張との関連を意識しながら、各段落からキーワード、キーセンテンス等を抜き出したり、各段落を1～2行の文章で簡潔にまとめたりする。

その上で、改めて各段落が書き手の主張とどのような関係にあるかを整理することで、原因と結果、意見と根拠など情報と情報の関係について理解を図る指導を行う。

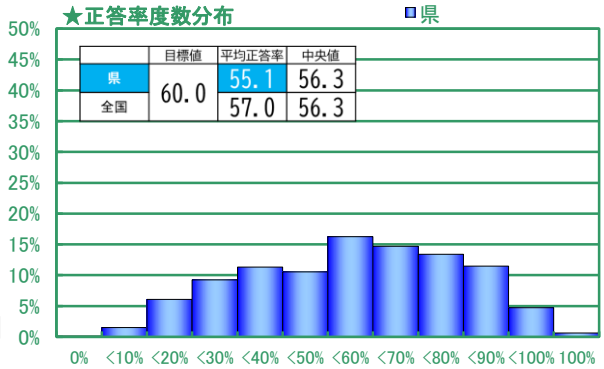
中学校第１学年・数学の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	60.0	55.1	57.0
	基礎	65.6	61.5	63.0
	活用	43.1	37.4	38.9
領域	数と式	60.6	54.9	55.5
	図形	72.5	73.1	73.5
	関数	54.0	51.9	53.0
観点	知識・技能	65.8	61.8	63.2
	思考・判断・表現	42.5	36.8	38.2
	主体的に学習に取り組む態度	49.2	43.8	46.4
解答形式	選択	66.0	62.1	63.5
	短答	57.7	53.3	54.9
	記述	32.5	21.7	22.9

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★正答率度数分布



	目標値	平均正答率	中央値
県	60.0	55.1	56.3
全国		57.0	56.3

成果が見られた問題

14（２）正答率 84.2%（全国値 82.7%、目標値 80.0%）
平行移動だけで重ね合わせることができる三角形を選ぶことができる。

課題が見られた問題

７（１）正答率 68.5%（全国値 71.9%、目標値 75.0%）
簡単な１次方程式を解くことができる。

17（２）正答率 29.6%（全国値 31.1%、目標値 35.0%）
厚紙20枚の厚さから、枚数を数えずに120枚取り出す方法を説明することができる。

中学校第１学年　数学

課題となった問題

●17(2)(本県 29.6%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答例】
・厚さが枚数に比例していることを捉えておらず、誤った計算をしている。（県 44.4%）
・結論の記述が抜けている。（県 0.5%）
【無答率】（県 25.4%）

目指す子供の姿

事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出し、その変化や対応の仕方に着目し、比例とみなして問題解決に生かそうとしている子供

授業改善のポイント

○ 伴って変わる二つの数量を取り出し、その変化や対応の仕方に着目することについて

・問題場面から数量の関係を見いだし、その変化や対応の仕方から、どのような関数関係なのかを判断することが必要である。また、何に着目し、どのように考えたのかを説明し伝え合う活動を取り入れることが大切である。

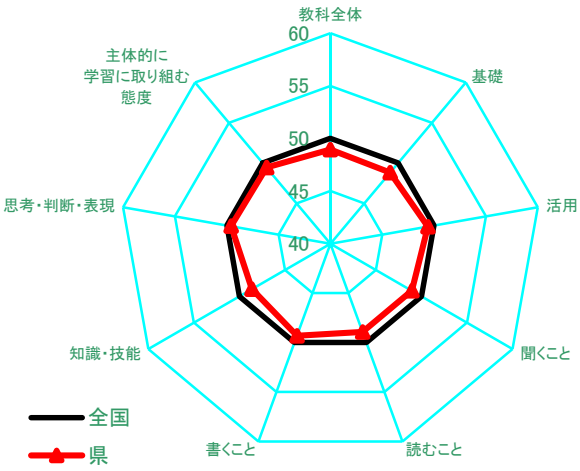
○ 具体的な指導について

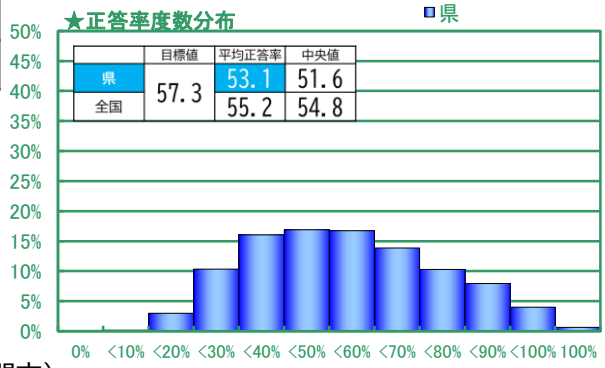
・単元を通して、問題場面から伴って変わる二つの数量を取り出し、どのような関数関係なのかを判断する活動を大切にする。また、関数関係を判断するために、必要に応じて式や表を用いて、問題場面の状況を整理することが大切である。さらに、比例とみなすことのできる根拠(「同じ種類の厚紙を材料として使います」など)に気付かせることも必要である。
・日頃から対話的な活動を取り入れ、自分の考えを筋道立てて伝え合うことに慣れさせるとともに、解決過程を記述(考えの根拠も含めて)したり、友達の考えを書き加えたりするよう促していくことが大切である。

中学校第１学年・英語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	57.3	53.1	55.2
	基礎	58.6	53.9	56.4
	活用	53.9	50.9	52.3
領域	聞くこと	61.3	57.0	58.9
	読むこと	58.6	55.0	57.4
	書くこと	51.7	46.4	48.4
観点	知識・技能	60.7	56.0	58.7
	思考・判断・表現	50.0	46.7	47.8
	主体的に学習に取り組む態度	57.7	54.2	55.3
解答形式	選択	62.8	58.8	61.2
	短答	47.0	39.5	43.6
	記述	47.5	44.6	44.7

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)





成果が見られた問題

３　正答率 96.6%（全国値 96.7%、目標値 90.0%）
日常的な話題についての英文を聞き、概要を捉えている。

課題が見られた問題

２（１）正答率 15.7%（全国値 16.2%、目標値 30.0%）
対話の内容を聞き、適切に応答している。（公園でスポーツをするかとたずねられて）

８（１）正答率 25.8%（全国値 35.0%、目標値 40.0%）
基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。（be動詞の疑問文）

中学校第１学年　英語

課題となった問題

●8(1)(本県 25.8%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答例】
・Is your book is
・is this book your
・This is your book など（県 71.8%）
【無答率】（県 2.4%）

目指す子供の姿

be動詞を用いた疑問文の基本的な語順と代名詞所有格の使い方を理解し、正確に書いている子供

授業改善のポイント

○ be動詞や代名詞を用いた疑問文とその答えを正しい語順で表現することについて

・Bの答えとAの文末のクエスチョンマークから、Aは疑問文であることを推測すること
・Bの答え方がbe動詞の疑問文に対する答え方であることを踏まえ、質問がbe動詞でスタートすることを推測すること
・your(所有格)の次は名詞であり、your bookは切り離すことができない語句であることを理解していること
等の指導が必要である。

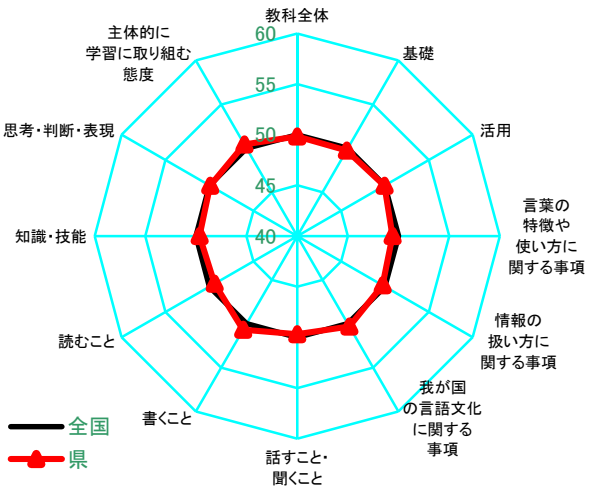
○ 具体的な指導について

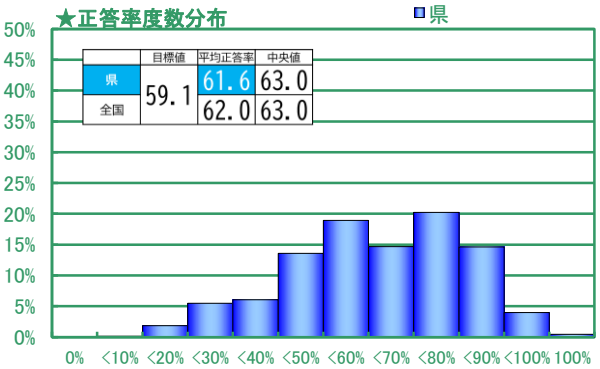
・be動詞を使ってやり取りした内容を書かせるなど、統合的な指導を行うことを通して繰り返し表現に触れさせ、定着を図る。
・代名詞についての知識を定着させ、所有格のルールについて理解を深め、繰り返し使用することで、語句のながりに慣れるための指導を行う。
・帯活動や言語活動でbe動詞を使用した表現でのやり取りを繰り返し、持続的な指導を行う。

中学校第２学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	59.1	61.6	62.0
	基礎	61.7	64.5	65.0
	活用	53.9	55.9	56.0
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.3	74.2	75.5
	情報の扱い方に関する事項	57.5	58.6	59.5
	我が国の言語文化に関する事項	55.0	56.0	55.0
	話すこと・聞くこと	55.0	56.6	57.3
	書くこと	55.0	62.8	59.7
	読むこと	51.7	52.0	53.6
観点	知識・技能	65.4	67.6	68.3
	思考・判断・表現	53.8	56.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	52.0	56.2	54.7
解答形式	選択	57.1	58.5	59.6
	短答	66.1	68.6	69.4
	記述	52.5	57.5	55.6

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較（各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します）





成果が見られた問題

７　正答率 65.7%（全国値 62.4%、目標値 55.0%）
　指定された長さで文章を書いている。

課題が見られた問題

４（２）　正答率 42.9%（全国値 43.3%、目標値 45.0%）
　情報と情報との関係について理解し、目的に応じて複数の情報を整理しながら内容を理解している。

５（３）正答率 42.3%（全国値 45.4%、目標値 45.0%）
　文章を読んで考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを深めている。

中学校第２学年　国語

課題となった問題

●5(3)(本県 42.3%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】
・「１」を選択（県 14.9%）
・「２」を選択（県 11.6%）
・「４」を選択（県 29.8%）
【無答率】（県 1.3%）

目指す子供の姿

他者の考えやその根拠、考えの道筋などを知り、共感したり自分の考えと対比したりすることで、物事に対する新しい視点をもつことにつなげ、自分の知識や経験と結び付けて考えを深める子供
〔指導事項〕中学2年　思考力・判断力・表現力等C(1)オ

授業改善のポイント

○　文章を読んで考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを深めることについて

・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付ける際には、関連する知識や経験を想起して列挙するのみでなく、それらと結び付けることによって、理解したことや考えたことを一層具体的で明確なものにしていくことが重要である。

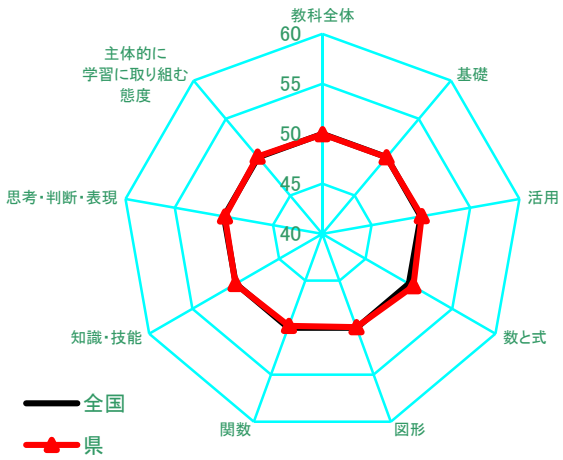
○　具体的な指導について

・文学的文章において、読み手がもつ知識や経験は一人一人異なることから、どのような知識や経験と結び付けるかによって、同じ文章を読んでも考えは多様なものとなる。このことを踏まえ、教科書教材等の共通の文章を基に、文章の一文を根拠に登場人物の心情の変化について「課題となった問題」の設問のような話し合う場面を設定する。また、〔知識及び技能〕の(3)「エ　本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。」などとの関連を図り、日常の読書活動と結びつけることが考えられる。

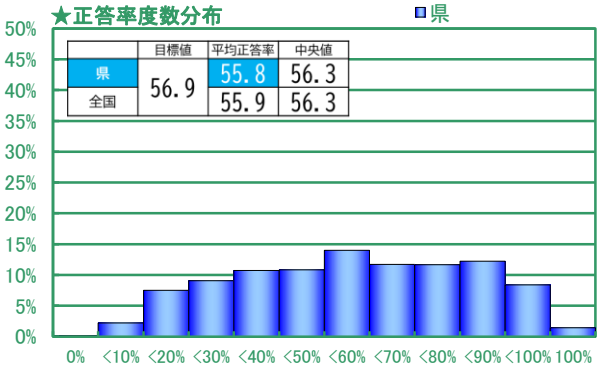
中学校第２学年・数学の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	56.9	55.8	55.9
	基礎	59.8	59.6	59.6
	活用	48.1	45.1	44.9
領域	数と式	52.1	51.5	50.1
	図形	65.0	65.5	65.6
	関数	57.5	56.2	56.7
観点	知識・技能	60.5	60.3	60.3
	思考・判断・表現	49.0	46.0	46.3
	主体的に学習に取り組む態度	48.1	45.1	44.9
解答形式	選択	56.8	55.9	56.8
	短答	59.7	58.7	58.2
	記述	35.0	32.6	31.6

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



★正答率度数分布



	目標値	平均正答率	中央値
県	56.9	55.8	56.3
全国		55.9	56.3

成果が見られた問題

14　正答率 68.2%（全国値 68.1%、目標値 65.0%）
　証明の必要性と意味について理解している。

課題が見られた問題

5　正答率 20.3%（全国値 19.4%、目標値 30.0%）
　与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式することができる。

17（１）正答率 41.0%（全国値 42.0%、目標値 45.0%）
　連立方程式を解く過程を、事象に即して解釈することができる。

中学校第２学年　数学

課題となった問題

●5(本県 20.3%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答例】 $\begin{cases} 2000x+1000y=10000 \\ 1800x+700y=10000 \end{cases}$ など
正答以外の解答（県 53.2%）

【無答率】（県 26.5%）

目指す子供の姿

文章題や表の中から数量の関係を捉え、特定の二つの変数の関係に着目して連立方程式を作り、問題解決に生かそうとしている子供

授業改善のポイント

○ 数量の関係を捉え、特定の二つの変数の関係に着目し連立方程式を作ることについて

・文章題や表から、二つの変数を用いて表すことのできる関係を順序立てて立式することが必要である。人数の関係についての式、代金の関係についての式など、特定の個数に着目することで、立式しやすくなる。

○ 具体的な指導について

・二つの変数を教師側から指定する前に、問題の中から変数となる数量を考える活動を取り入れることが必要である。その際、変数の数がいくつあり、その変数の数量が何なのかを明らかにすることが大切である。

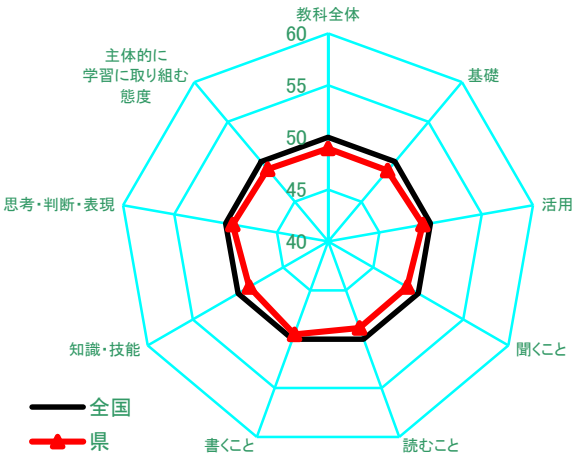
・人数の関係、代金の関係など、数量の関係を具体的に捉えた後に、その関係を順序立てて立式するようにしていく。(①人数の関係を式で表す→②代金の関係を式で表す)

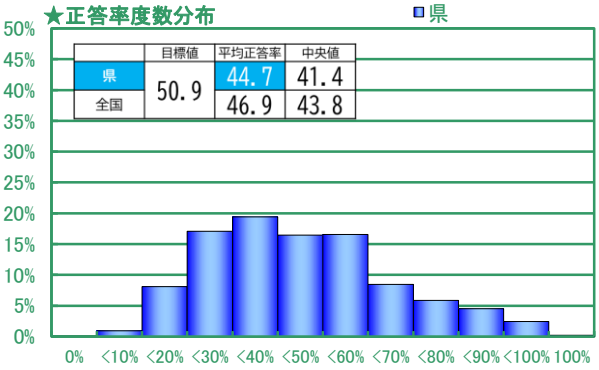
・問題から式を考える活動に加え、提示された式の意味を考える活動も取り入れることが必要である。例えば、「200χ」の「200」は問題に表されていない数値であり、その意味を考えることが、式の意味の理解や、問題を的確に捉える能力の育成にもつながる。

中学校第２学年・英語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	目標値	平均正答率	
			県	全国
基礎・活用	教科全体	50.9	44.7	46.9
	基礎	54.5	48.7	51.0
	活用	43.0	36.1	38.0
領域	聞くこと	58.9	53.2	55.9
	読むこと	52.1	46.8	49.1
	書くこと	41.1	33.0	34.4
観点	知識・技能	58.6	53.3	56.0
	思考・判断・表現	41.1	33.7	35.3
	主体的に学習に取り組む態度	50.0	43.4	45.5
解答形式	選択	57.6	52.8	55.4
	短答	45.0	35.4	37.2
	記述	32.5	24.3	25.4

★ 標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)





成果が見られた問題

６（２）② 正答率 57.9%（全国値 60.0%、目標値 50.0%）
対話文の情報を正しく読み、その内容を理解している。

課題が見られた問題

８（４）正答率 7.8%（全国値 10.1%、目標値 25.0%）
メールを読み、その内容をふまえて、英文を完成させている。

10（２）正答率 10.6%（全国値 11.4%、目標値 25.0%）
対話の流れに合った英文を正確に書いている。
（howを使って行き方をたずねる）

中学校第２学年　英語

課題となった問題

●10(2)(本県 10.6%)

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答例】
How can you go?　Where can you go ? What can I go?　など
３か所以上のつづりの誤りや文自体に誤りがあるもの
（県 46.1%）

【無答率】（県 43.3%）

目指す子供の姿

対話の流れに合った英文として、howを使って行き方をたずねる英文を正確に書くことができる子供

授業改善のポイント

○ 目的地に行く方法を尋ねる疑問文とその答えを正しく表現することについて

・対話の流れを把握し、目的地まで行く方法を尋ねていることを理解していること
・行き方を尋ねる表現や、副詞thereの使い方を身に付けていること
・表現上の決まりを守って正確に書くことができること
等の指導が必要である。

○ 具体的な指導について

・道案内における会話について、理解を図るために、様々なパターンの道案内の練習をスパイラルに行う。
・目的･場面･状況等を設定し、実践的な学びになるよう指導を行う。
・how などの疑問詞＋疑問文の使い方を理解するために、日頃から帯活動や言語活動の中で、疑問詞を使用した「話すこと〔やり取り〕」の練習を持続的に行う。また、伝えた内容を「書く」など、統合的な活動を行うことが重要である。

校内研修シート①　「問題分析から授業改善へ」

◇各学校でも問題を分析し、授業改善の方策を考えてみましょう。

取り出した問題：学年(　　)　教科(　　)　問題番号(　　)

※平均正答率　：自校(　　)%、県(　　)%　目標値　：(　　)%

① 「題材」や「配列」、「問い方」の工夫について、話し合いましょう。

② 解答類型等から、自校の子供たちのつまずきの状況を確認し、その要因を考えましょう。

○ 学校総体で取り組む手立て(内容)をまとめましょう。

〔例〕校内研修シート①　「問題分析から授業改善へ」

◇各学校でも問題を分析してみましょう。

取り出した問題：学年(　3年　)　教科(　国語　)　問題番号(　7　)

※平均正答率　：自校(　　)%、県(　　)%　目標値　：(　　)%

① 「題材」や「配列」、「問い方」の工夫について、話し合いましょう。

・「文の長さ」「構成」が指定されている。
・忘れ物をする理由と気をつけることについて、自分が考えたことを書かせている。

② 解答類型等から、自校の子供たちのつまずきの状況を確認し、その要因を考えましょう。

・無答が多い。
　→文を書くことに苦手意識がある。
　→問題の内容は理解できているが、何から書き出していいか分からない(悩む)児童が多い。
・理由を述べる書き方になっていない。
　→理由のような文は書けているが、理由の表現になっていない。

○ 学校総体で取り組む手立て(内容)をまとめましょう。

・お題(テーマ)を決めた日記やミニ作文に取り組む。
・理由を述べるには、「理由は、～」「～だからです」といった表現があることを確認し、文章を書く際だけでなく、授業の中で意識して使うよう指導する。

校内研修シート②「正答率等の結果から授業改善へ」

◇各学校でも課題となった問題を抽出し、目指す子供の姿と指導のポイントを書き入れましょう。

課題となった問題	目指す子供の姿
●学年、教科、問題番号（正答率　%）	

【誤答例】
・（　%）
【無答率】（　%）

授業改善のポイント

○　授業改善をする際に大切にする考え方等について
・

○　具体的な指導について
・

〔例〕校内研修シート②「正答率等の結果から授業改善へ」

◇各学校でも課題となった問題を抽出し、目指す子供の姿と指導のポイントを書き入れましょう。

課題となった問題	目指す子供の姿
●小学校5年　算数　問題番号　20(3)(11.2%) ※著作権の関係により掲載しておりません。 各学校で問題を御確認ください。	数量の関係を正しく捉えた上で計算の仕方を考え、小数の乗法や除法の計算を日常生活に生かそうとしている子供

【誤答例】
・Aのふくろの硬貨の枚数が多いから、Aのふくろの金額が大きいと結論を出している場合（1.4%）
・上記以外の回答（65.9%）
【無答率】（21.4%）

授業改善のポイント

○　数量の関係を正しく捉えた上で計算の仕方を考え、小数の乗法や除法の計算を日常生活に生かすことについて

・文章題に即した四則計算を検討する際、数量の関係を正しく捉えることが大切である。除法について、何を求めるのか（割合や基準量）を捉えた上で立式するとともに、答えが適切であるかを吟味する。また、単元の中に、小数が日常生活に使われている事象を問題として取り扱うことが必要である。

○　具体的な指導について

・式の意味を捉えることが大切である。除法の立式において、問題（事象）と式を往還することで、式の意味理解も深まっていく。
・乗法と除法をどちらも用いないと解決できない問題を扱うことも大切である。問題解決に向けて、解決に必要な数量を順序立てて求める能力を養っていく。
・日頃から自分の考えを記述する習慣を身に付けるよう、板書を機械的に写すのではなく、自分の考えや立式の根拠も含めてまとめたり、友達の考えを書き加えたりするよう促していくことが大切である。

校内研修シート③「伸び」を分析する

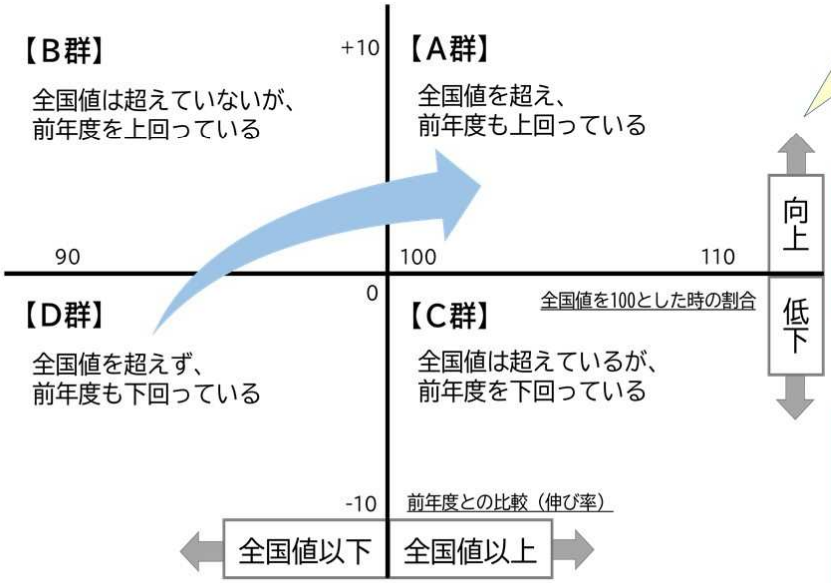
◇各学校でも自校の4分類を踏まえた「伸び」を抽出し、今後の取組を話し合いましょう。

同一集団の伸びに着目した分類

「熊本の学び」アクションプロジェクトハンドブックより一部修正

学校群の4分類について

※横軸は、全国値を100とした時の割合、
縦軸は、前年度と比較した伸び率
（全国値を100とした時の割合の差）を算出。



① 自校の位置を把握しましょう。

群

※令和2年度の県学調の結果から、自校を【A群】から【D群】に配置すると、令和3年度県学調の結果では、自校は何群にあたるでしょうか。

② 「伸び」を分析し、その要因を書きましょう。

③今後の取組を話し合いましょう。

※県学調と全学調では、全国の調査に参加している母体数は異なっています。

〔例〕校内研修シート③「伸び」を分析する

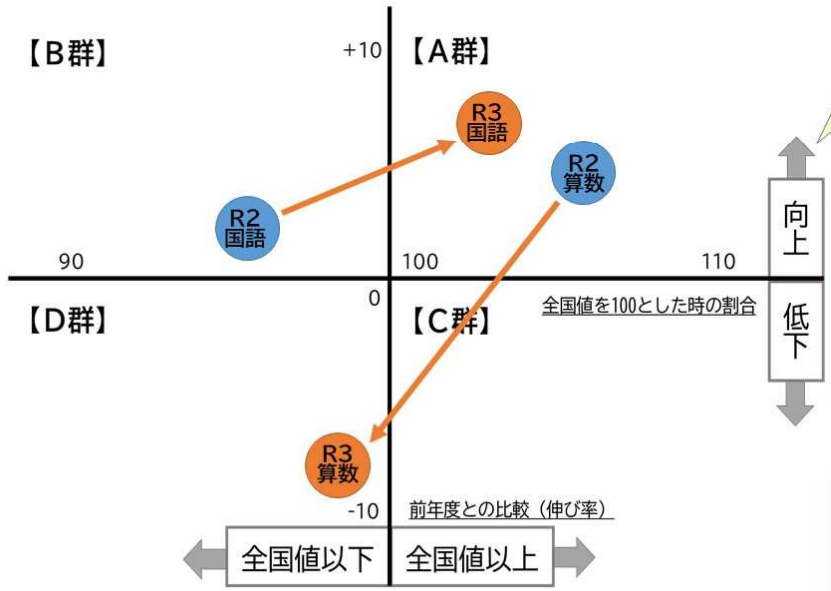
◇各学校でも自校の4分類を踏まえた「伸び」を抽出し、今後の取組を話し合いましょう。

同一集団の伸びに着目した分類

「熊本の学び」アクションプロジェクトハンドブックより一部修正

学校群の4分類について

※横軸は、全国値を100とした時の割合、
縦軸は、前年度と比較した伸び率
（全国値を100とした時の割合の差）を算出。



① 自校の位置を把握しましょう。

小4国語…A群、小4算数…D群

＊学校全体だけでなく、学年・クラス・個人単位でも分析することができます。

※令和2年度の県学調の結果から、自校を【A群】から【D群】に配置すると、令和3年度県学調の結果では、自校は何群にあたるでしょうか。

② 「伸び」を分析し、その要因を書きましょう。

・国語は、書く問題の無答の割合が昨年度より減っている。

・算数は、作図の誤答が多かった。

＊正答率の低い問題の傾向や誤答の傾向、昨年度の傾向との比較等、様々な視点から要因を分析しましょう。

③今後の取組を話し合いましょう。

・国語の短文づくりを継続して行う。

・作図の前提となる図形等の性質の理解を丁寧に指導する。

※県学調と全学調では、全国の調査に参加している母体数は異なっています。

検証　子供たちの学力の向上を目指して！　学力向上検証改善サイクルを確立させましょう

① 2月

令和3年度熊本県学力･学習状況調査の結果から一部抜粋したものです。自校の結果を書き込み、学習状況の分析に活用してください。他の学年や項目についても確認しましょう。

対象	質問項目	県の結果	自校の結果
教員	あなたの授業では、児童生徒の理解の状況や習熟の程度に応じて補充的な学習や発展的な学習を行うなど、個に応じた指導の充実が図られていますか。（よくしている＋どちらかといえばしている）	小 91.2%	
		中 81.9%	
	あなたは、教科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えていますか。（よくしている＋どちらかといえばしている）	小 94.8%	
		中 77.1%	
	授業等で関わる児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。（そう思う＋どちらかといえばそう思う）	小 88.4%	
		中 86.5%	
児童生徒	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。（当てはまる＋どちらかといえば、当てはまる）	小6 91.1%	
		中2 84.2%	
	勉強するときは、自分で計画を立てていますか。（いつも立てている＋だいたい立てている）	小6 61.2%	
		中2 46.9%	
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思いますか。（当てはまる＋どちらかといえば、当てはまる）	小6 74.2%	
		中2 68.2%	

【考察】（結果分析）

② 2月

結果を受け、改善すべき点を指標に示すとともに、学校総体･個人で取り組む内容を決めます。

重点事項

【自校で設定する指標】

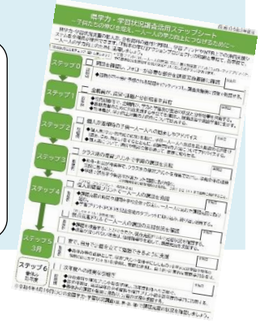
対象	質問項目	現状値	目標値
教員 or 児童生徒			
教員 or 児童生徒			

【学校総体で取り組む内容】（共通実践事項）（2022 ． ．　）現在

【個人で取り組む内容】（マイアクションプラン）（2022 ． ．　）現在

③ 2月～

【具体的に取り組むこと】



ステップシートも活用しましょう！

4月

全国学力・学習状況調査（R4. 4/19）

※4月に異動された先生方は、自校の①～③の流れを確認しておきましょう。

④ 8月

4月に実施された全国学力･学習状況調査の結果が7月末に提供される予定です。その結果をもとに、②で設定した取組内容を検証し、必要があれば指標や目標値、取組内容を修正して、熊本県学力調査へ向けて取り組みましょう。

【自校で設定する指標】

対象	質問項目	現状値	目標値
教員 or 児童生徒			
教員 or 児童生徒			

【考察】（結果分析）

熊本県学力・学習状況調査　12月

（R4. 12/1～12/9）

⑤ 8月

自校の課題を課題のままで終わらせないために、夏季休業中には、学校総体で取り組む内容や個人で取り組む内容を焦点化して設定するとともに、定期的にその取組内容を評価して、課題解決に向けて重点的に取り組みましょう。

重点事項

【学校総体で取り組む内容】（共通実践事項）（2022 ． ．　）現在

【個人で取り組む内容】（マイアクションプラン）（2022 ． ．　）現在

⑥ 9月～

【具体的に取り組むこと】